

令和6年度 名取市地域公共交通活性化推進協議会 会議録

1.日 時

令和 6 年 10 月 31 日(木) 14:00～15:10

2.場 所

名取市役所3階 第1～3委員会室

3.出席者

別添名簿のとおり

4.傍聴者

1 名

5.報告内容

1) 名取市地域公共交通計画の取組状況について 【資料1 ・ 資料1-1 ・ 資料1-2】

→ 名取市地域公共交通計画の令和5年度末時点の評価指標実績値及び、令和5年度における本市の取組状況について報告を行ったもの。

6.質疑応対

(田端委員)

デマンド交通の乗車率が経営に大きく影響すると思う。コストを上げずに収入を増やすとした時に、1台の車にどのくらいの人が乗り合うべきか指標の中に含まれると良い。また、乗合率を上げていくためにどういう施策を行う必要があるのか。例えば、運転手からの意見や政策企画課より地域交通等の周知行うなど、そういう連携がお客様サービスや乗車率を高めていくという観点では大きいと見ている。

(防災安全課)

乗合率については一般的に様々な定義があることから、今現在、実際のデータを基に定義を検討している段階になる。ここで具体的にお示しできるものは持ち合わせてはいないが、定義が固まれば機会を捉えて皆様にお示しをできればと考えている。

(田端委員)

デマンド交通の予約について弾力的に取り扱うことで乗合率が向上するのではないかな。

例えば、デマンド交通の予約は1人でしていたが、友人が同じ帰宅経路であることから一緒に帰宅したいとなった際に、運航経路に誰も乗車予定が無い場合は、運転手とオペレーターと調整し、2人を乗車させることはできないか。もちろん予約が前提だが、ルールに大きく逸脱しない程度に上手に運用すれば、利用客も増加するのではないかな。

(田村委員)

デマンド交通は現在 6 台で運行している。当初は乗合率があまり高くなかったため、その場で対応していたが、現在は特に西側の利用者が多く、現状予約が取れない状況である。

また、デマンド交通の予約については、オペレーターが予約して配車を決めるわけではなく、全て A I の予約システムによる運行経路、運行指示となっている。そのため、予約以外で 3、4 人乗った時に先に予約していた後乗車が出来なくなってしまう。この改善策については名取市と協議していきたい。

(太田委員)

なとりんくるの利用対象者について、市外の住民も対象となる記載だが、どういう人たちでどのエリアの人達なのか。

また、なとりん号なとりんくるのに対する助成はどのくらいか、直近の数字を教えてください。なお、宮城交通にも助成がある場合はその金額はいくらか。

(防災安全課)

なとりんくるの対象者だが、市民市外問わず、誰でも利用できるものになっている。市民の方の特性としては、アプリもしくは防災安全課への申請で、自宅を登録することができ、市民の方であれば、自宅から目的地まで行くことができる。

市外の方は、指定乗降場所と言われる場所間では、電話でもアプリでも利用できる。市外の方は名取市内の 1 か所を自分の乗降場所場として指定できるようになっている。

補助について、大新東株式会社に委託料を支払いしているほか、想定収入見込みという年間でどの程度収入があるかを決めており、そこに達しない部分を欠損補助という形で補填している。令和 5 年度の運行については、なとりん号に関しての想定事業収入見込みを達したので補填はない。「なとりんくる」は約 320 万円の欠損を補助している。

(政策企画課)

資料 1-1の 1 枚目の (3) に宮城交通の市内運航路線における全体収支率の実施状況欄に記載しているとおり、令和 5 年度については、コロナ禍における燃料費高騰に対し、新型コロナウイルス感染症地方創生臨時交付金を活用して現行路線を維持するための支援金ということで補助している。なお、通常分の補助というのは現時点では行っていない。

(太田委員)

それは国からの交付金をそのまま事業者に補助したということか。

(政策企画課)

本市にてどの事業に充てるかというものを決めており、その中で燃料費が高騰していることから補助はしたものである。自治体によっては補助していない自治体もある。

(佐々木委員※代理：高橋氏)

乗合率について、A I デマンドを導入している市町村では重視しているところである。私の知る限りで2を超えているような自治体は無く、あまり乗り合っていない自治体が多い状況である。名取市では予約で埋まっているという話から、非常に上手に回されていると思い聞いていた。一方で、まだ乗合率の定義を市では決めていないとのことだが、重要な指標になると思う。利府町などは既に乗合率を会議の場に出しているため、同じ算出方法にした方が横並びで比較しながら意見交換をできると思う。算出方法等については、直接利府町に聞くか、もしくは県に問い合わせ願う。

(高橋委員)

デマンド交通は市民にとって関心が高い。現在、西側の利用が多く、市内6台で回しているということだが、西側に車両を増やす等の見直しはいつ頃を想定しているのか。

(防災安全課)

見直し内容については例えば稼働率という指標がある。営業時間のうち実車運行をしている時間の割合や満員で予約をお断りしている件数等の情報を集めているところであり、データ収集の結果で検討したい。

(高橋委員)

デマンド交通の収益率は9.5パーセントということで、市の負担が多いかもしれないが、引き続き市の方で負担してもらいたいと市民として思う。

(会長)

市内6台で運行しているが、その数の妥当性は運行した実績踏まえ、収支状況を鑑みながら見直しの方向を皆様と考えていきたい。

(田端委員)

デマンド交通の台数を増やすことについては、タクシーやバスなどの他公共交通機関に影響しないように予算を設定しながら乗合率を高めて行くべきであり、かなり慎重になるべきだと思う。

現状、満車ですぐに予約が取れない現状だが、コスト改善をしながらデマンド交通がどうすれば持続可能な運行ができるのか、乗車率をどうすれば高められるか議論を進めていけると良い。

(会長)

この場で結論は出ないが、様々な意見を総合的に判断して1番良い方法を見つけ出していきたい。

(小畑委員)

資料19 ページの学生モビリティマネジメントについて、どのような意見があったのか。また、学生の提案について検討したものはあるのか。

(政策企画課)

いくつか申し上げると1つは、初めて利用する人に分かりやすいように表示してほしいという内容があった。こちらは名取市の交通のガイドブックやホームページに路線図や時刻表などはじめ、利用方法などを記載して周知を図っている。

2つ目に、suicaを導入して欲しいという意見があった。ただ、suicaの導入にはかなりの費用がかかるため、チケットQRというアプリを導入しキャッシュレスを対応している。

その他、そもそもバスの乗り方がわからないという意見もあった。こちらに関しては、同様にホームページや広報ガイドブックを通して周知しているが、住民の方々からなとりん号、なとりんくるの使い方教えて欲しいという連絡に応じて出張して乗車方法等を周知している。

なお、今年度は、小学校に実際のバスを配置し、バスの乗り方教室を実施する予定である。

(田端委員)

ゆりが丘とか団地等は高齢化している。高齢者に対するワークショップや勉強会を高齢化している団地に対して実施してもらえば良い。

(政策企画課)

学生以外にも、住民の方々に対するモビリティマネジメントというのはとても重要と認識している。ゆりが丘地区でまちづくりの勉強会を行っているが、その中でバスの本数が必要等、公共交通に関しての意見も出ている。

そのため、まちづくりと絡めながら、公共交通のあり方を住民の方々と一緒になりながら勉強会等で考えていければと思う。

(高橋委員)

公民館でアプリの使い方を定期的に回ってくれている。私も7月に参加したが、市公式アプリの使い方を基礎から教えてくれた。ただ、デマンド交通の使い方については講義時間が一時間ということもあり、そこまで聞くことが出来なかった。利用方法は資料、各自で読んでほしいということだったが、デマンド交通の利用方法まで実施していただきなかった。

(小平委員)

DX推進室ではデジタルデバイドの解消のため、各公民館にて基礎的なアプリのインストールの仕方等の講習会を実施している。ただ、全アプリへの対応までは難しいため、連絡をいただければ地域に出向いての説明もさせていただく。また、DX推進室の窓口に来ていただければ個別対応も可能である。

(太田委員)

資料 1-1の1 ページ (3) について、まちづくり会議という表現とまちづくり協議会という表現があるが、同じものであればどちらが正しいのか。

(政策企画課)

まちづくり会議が正しく、同様のものになる。

(鈴木委員)

資料 1-1 の達成状況に関して、現状値が令和 3 年度で、コロナの影響がまだ色濃く残っている値である。利用者や観光客の入り込み数等については現状値に対して増えただけで評価して良いのか。取組の記載を工夫して表現した方が良い。

また、宮城交通の路線バス収支率について、78.3 パーセントであることから赤字である。目標値は経営の健全化であり、数値ではないことから達成状況は斜線とのことだったが、丸や三角で表現すると印象としてはバツである。表現の仕方を検討することはできないか。

なとりん号に比べれば収支率は良いが、補助を受けているわけではないため、その分は赤字である。さらに 2024 年問題で、運転手もいないということで、今月 1 日のダイヤ改正で減便しており、利用のあるところでも来春以降のダイヤ改正で減らし続けざるを得ない状況にまで陥っている。

名取市において、モビリティマネジメント等に取り組んでいただいているが、モビリティマネジメントだけでは収入を確保できないということも現実問題としてあるため、路線バスを維持するためにも踏み込んだ施策を検討いただきたい。

(政策企画課)

地域公共交通計画は令和 4 年度のコロナ禍に策定したため、目標値の設定というのが難しかったところである。今後についてはコロナ前の指標も提起し、コロナ前と比較できる形で資料を作り、説明の仕方で補っていきたい。

宮城交通からは現状の課題等について紹介があったが、この協議会ですぐに施策を実施することは難しいが、今後も引き続きまずは情報共有を図りながら検討したい。

(田端委員)

A I デマンド交通という呼び名は高齢者には馴染めない。ネーミングからね、サービスの中身が分かる名称への変更を検討することはないか。そうすれば認知も広がるのでは。

(会長)

現時点では検討はしていないが、参考にさせていただく。

(徳永副会長)

資料 1-1 の 5 ページに、その 2 回を利用した人ということで、リピート率ということで出ているが、その日に行って帰ってくれば 2 回利用になるとすれば、2 回で止まってしまっている人は実はリピートしてないということかもしれない。そもそも利用登録はしたが利用していない等、1 回は利用してみたがその後利用していない等、そういう人たちが何を思っているかといった値をしっかりと吸い上げて改善につなげていかないといけない。

また、資料 1-1 の (2) について、生活路線がデマンド交通になり、収支率が向上したというところだが、その一方で、幹線路線の収支率が若干減少している。利用自体は増えているため、それ以

上にコストがかかっているということか。その辺りの原因分析やそれに対して今後どう考えているのか。

(防災安全課)

収支状況について、再編と併せて実施した障害者の割引の拡大及び免許返納者割りという部分で収入の落ち込みが反映している。その他、政策的判断により再編時の運賃設定を 50 円下げたことが大きな要因になっている。

費用的な部分については、今回バス会社が変わり、車両の調達費等の部分で費用がかかってきていることが原因となっている。

7.その他（意見交換等）

(太田委員)

初めての参加のため確認だが、この場で議決をするというケースはあるのか。

(政策企画課)

本日は令和 5 年度の施策等についての報告としているが、地域公共交通計画を策定する際に、委員の皆様へ審議をいただいた上で、計画を策定している。そのような時には委員の皆様から承認をいただくこともある。

(太田委員)

出席できない時は代理で出席させても良いか。

(政策企画課)

仮に何かを審議する場合には、代理という部分については要綱上規定がないため、ご本人の出席をいただきたい。

令和 6 年 11 月 20 日

会長 我妻 諭

名取市地域公共交通活性化推進協議会委員 名簿

	職 名	所 属 等	氏 名
1	会 長	名取市 副市長	我妻 諭
2	副会長	宮城大学 教授	徳永 幸之
3	委 員	名取市 副市長	門脇 雅之
4	委 員	名取市 総務部長	桜井 淳一
5	委 員	名取市 企画部長	小平 英俊
6	委 員	名取市 健康福祉部長	安倍 卓
7	委 員	名取市 生活経済部長	小畑 和弥
8	委 員	宮城交通株式会社 営業部次長兼計画課長	鈴木 俊介
9	委 員	株式会社ミヤコーバス 執行役員 南部地区支配人	高瀬 孝一
10	委 員	大新東株式会社名取営業所 所長	田村 篤人
11	委 員	有限会社増田タクシー 常務取締役	桃野 博行
12	委 員	名取交通株式会社 安全統括運行管理者	菅原 幸一
13	委 員	株式会社なとり川交通 専務取締役	佐藤 敏彦
14	委 員	東日本旅客鉄道株式会社東北本部 企画総務部 経営戦略ユニット 企画課長	小池 靖人
15	委 員	仙台空港鉄道株式会社 代表取締役専務	江間 仁志
16	委 員	国土交通省東北地方整備局 仙台河川国道事務所 岩沼国道維持出張所 所長	伊藤 洋一
17	委 員	宮城県仙台土木事務所 副所長兼道路部長	児玉 光誉※
18	委 員	名取市 建設部長	村上 諭
19	委 員	岩沼警察署 交通課長	岩渕 光明
20	委 員	名取市区長連絡協議会 会長	太田 博二
21	委 員	名取市老人クラブ連合会 会長	田端 幸男
22	委 員	名取市地域婦人団体連絡協議会 会長	高橋 志津枝
23	委 員	名取市身体障害者福祉協会 副会長	熊谷 広基
24	委 員	東北運輸局宮城運輸支局 首席運輸企画専門官	関澤 京子
25	委 員	宮城県企画部地域交通政策課 副参事兼総括課長補佐	佐々木 浩※

26	委員	宮城県交通運輸産業労働組合協議会 特別幹事	大浦 弘二
27	委員	仙台市都市整備局総合交通政策部公共交通推進課 課長	菊池 信幸
28	委員	名取市商工会 会長	洞口 祐一
29	委員	名取市観光物産協会 会長	佐々木 洋

：当日欠席者 ※：代理出席

職 名	所 属	氏 名
事務局	企画部政策企画課長	針生 大輔
事務局	企画部政策企画課長補佐	佐藤 恵子
事務局	企画部政策企画課政策係長	佐藤 拓人
事務局	企画部政策企画課政策係主査	森 弘太郎
事務局	総務部防災安全課課長補佐兼交通防犯係長（オブザーバー）	門脇 良明
事務局	総務部防災安全課交通防犯係主事（オブザーバー）	須田 翔太